

桂川町 まち・ひと・しごと創生 総合戦略

検証報告書

令和7年2月

今回の総合戦略検証委員会 検証について

【1】検証項目

今回の検証では、下記の内容に重点を置き検証する。

- (1) 第2期桂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）の基本目標Ⅰ～Ⅳに関する各施策や取り組み及び成果が、各基本目標の数値目標（KGI）及び目標達成指標（KPI）に及ぼす効果の検証（※実績・事務局評価を参考）
- (2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の実施結果に対する効果の検証

【2】検証内容

前項（1）、（2）について、各施策や取り組み及び、各種交付金活用事業の進捗状況や効果（KPI）を踏まえ、桂川町の地方創生への有効性について、検証委員会としての意見を求めるとともに、総合評価（効果あり、一部効果あり、効果なし）を行う。

※一部効果あり、効果なしの場合は、総合戦略の見直し等を実施する。

【3】検証対象となる期間

この報告書は、総合戦略の令和5年度及び直近の事業実施状況を取りまとめたものです。

【参考】総合戦略の期間

総合戦略の取組期間は、令和3年度～令和7年度の5か年

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
総合戦略 (令和3年度～7年度)	策定●					



※ 前年度の実施状況及び直近の状況を取りまとめ、報告しています。

総合戦略の実施状況報告（概要）

（１）令和５年度の主要な成果について

【基本目標Ⅰ 定住促進プロジェクト関連】

“町の魅力向上及び発信 ”

本町は、令和６年度地価公表（筑豊地域）において、住宅地（0.8％）・商業地（4.0％）・工業地（10.9％）と全て上昇しており、商業地（豆田）においては、筑豊地域内で最大の上昇率となりました。

さらに、飯塚市・嘉麻市・桂川町での広域連携として、ＪＲ桂川駅を結節点とした交通機能の強化について協議を行っており、都市機能の強化を図っております。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止による制限等が緩和されたことで、福祉バスの利用者数、地域サロン活動参加者数、住民センター利用者数等の KPI（目標達成指数）も基準値（2019 年度末）を超えており、コミュニティの形成も徐々に図られております。

今後は、町の魅力度を発信する、ふるさと応援寄附金事業を拡大することで、町の活性化に向けた取り組みを進めていきます。

“ 移住定住の促進に向けた取り組み ”

総合戦略の将来像として「将来にわたって活力あるまち、定住地として選ばれる桂川町を目指して」と掲げており、移住定住に向けた施策を展開しております。

KPI による空き家バンクの契約成立件数及び移住定住情報発信サイトの閲覧数は目標値には届かないものの、件数は順調に増加しております。空き家バンクについては、相談件数が多く、空き家バンクに登録できない物件等であっても、協力事業者につなぐことにより売買契約が成立した事例も数件ありました。

引き続き住環境の整備については検討・取り組みを推進するとともに、現在の各町営住宅跡地の利活用についても、検討を進めて参ります。

また、空き家バンク事業の取り組みを深化させ、民間宅地・住宅情報提供による移住定住者確保に努めてまいります。

【基本目標Ⅱ 教育プロジェクト関連】

“子育て世帯が暮らしやすい環境の充実 ”

教育委員会が実施している土曜学習教室においては、年々参加者が増加しております。学習内容をより充実した効果的なものにするため、ICTを活用したオンライン学習に向けた実証授業も2回実施いたしました。

また、高校・大学と連携したまちづくり等に資する取り組みとして、大学生には土曜学習教室の講師、古墳調査、王塚古墳特別公開（春・秋）への協力等、教育委員会事業を通してまちづくりに貢献していただきました。高校生については、地元である嘉穂総合高校に協力をいただき、学校授業におけるプログラミングを始め、あおぞら市、王塚古墳まつりへの参加等、様々な分野で連携を図ることができました。

子育て支援や教育の充実に向けて、引き続き努めてまいります。

【基本目標Ⅲ 産業プロジェクト関連】

“ 町内産業の成長支援及び婚活の支援 ”

特産品開発の補助については、商工会の協力もあり、令和5年度に2件の申請があり、補助金を受けた事業所は本町のイベントへの出店やふるさと応援寄附事業への出品等、町の元気を町内外へ発信するため、尽力していただいております。

また、婚活支援についても、令和2年度から飯塚市・嘉麻市との共催により「ゆのうら体験の杜」で開催しており、4年間で19組のパートナーが成立しました。

今後も商工会及び町内事業所の協力のもと、ふるさと応援寄附事業やイベントを通じて対外的な魅力の発信、農業の活性化等に資する支援を図っていきます。

【基本目標Ⅳ 王塚プロジェクト関連】

“ 王塚古墳の更なるまちづくりへの活用 ”

令和3年3月に特別史跡王塚古墳保存活用計画を策定され、この計画に基づき施設運営や様々な取り組みを進めているところです。

新型コロナウイルス感染拡大防止による制限が解除されたことに伴い、特別公開が再開され、町内外から多くの方にご来場いただきました。さらに、王塚装飾古墳館入館者数、WEBサイト閲覧件数はKPIの目標値に肉薄する数値となるなど、コロナ以前の数値を大きく超えており、本町の宝である王塚古墳への興味関心が高いことが確認できました。

今後も地元まちづくり団体などとも連携し、王塚古墳まつりなど各種企画やPRグッズ開発、メディアの活用を積極的に推進し、桂川町の認知度向上に努めます。

(2) 今後の課題及び検討を要する主要な施策について

“ 移住定住促進に資する取り組みの深化 ”

(※関連：【基本目標Ⅰ】【基本目標Ⅱ】内の各施策・取り組み)

本町は、福岡都市圏へのアクセスがＪＲ福北ゆたか線を利用し、約 30 分という立地にある一方、町内には古代から続いてきた田園風景や棚田の景色が広がっています。総合戦略の基本目標ⅠやⅡにある、都市機能の利便性向上による暮らしやすいまちづくりや子育て世帯が暮らしやすい環境の充実及び定住促進につながる魅力ある教育環境づくりなどは、都市圏からの人の流れを生む大きなポイントで、現在はこれらを桂川町の魅力として積極的にＰＲしています。

今後も、空き家バンクを活用した移住者の誘致、ふるさと応援寄附金事業を活用した町のＰＲ、桂川町のひと・もの・ことを活かした教育体制の充実等、桂川町の魅力を発信することで、移住・定住の促進を図っていきます。

“ 町内産業及び町ブランド力の成長 ”

(※関連：【基本目標Ⅲ】【基本目標Ⅳ】)

総合戦略の基本目標 3 における地域に密着した生活産業の創出は、地場産業の発展や働く場の確保につながるだけでなく、人口減少に歯止めをかけ、福岡都市圏等から人の流れを生むための生活環境の充実は重要な課題です。

商工会や金融機関、民間事業者、地域商社など、官民が連携し、本町のもつポテンシャルを最大限発揮できるよう情報収集やニーズ把握、様々な事業・アイデアを検討し、取り組んでいきます。

また、基本目標 4 の本町の宝「王塚古墳」においては、「王塚古墳」をまちづくりに活用する取り組みや施策など、本町にしかできない地方創生のまちづくりに活かし、多彩な交流事業を実施することで交流人口や関係人口の増加を図っていきます。